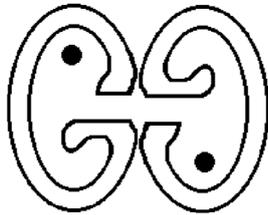


日本双生児研究学会ニュースレター

《第69号》

Newsletter of Japan Society for Twin Studies

2020年12月発行



目次

- ・ 日本双生児研究学会第35回学術講演会
プログラムのご案内 2020年1月23日(土)開催
- ・ 幹事会 報告
- ・ 論文、発表抄録の紹介
- ・ 学会事務局よりお知らせ
- ・ 会員用メーリングリスト運用のご案内

編集後記

会員募集のお知らせ

入会を希望される方は郵便振替用紙に口座番号(00910-2-253840)、加入者名(日本双生児研究学会)をご記入の上、年会費(3,000円)をご送金下さい。また、通信欄に所属・所属の住所・電話番号・FAX番号・E-mail等をお書き添え下さい。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7 大阪大学大学院医学系研究科

附属ツインリサーチセンター内 日本双生児研究学会事務局(本多智佳)

学会ホームページアドレス <https://jsts.jp.net/>



I. 日本双生児研究学会第35回学術講演会

2020年1月23日(土)開催プログラムのご案内

<日本双生児研究学会 第35回学術講演会のご案内 第2報>

大会長 安藤寿康 (慶應義塾大学)

1. 日程、開催方法、大会長、事務局

- 1) テーマ Twins in COVID19 crisis (新型コロナ危機の中のふたご)
- 2) 日程 2021年1月23日(土)9時30分~17時00分
(9:15から入室開始、9:25から進行説明と挨拶)
- 3) 開催方法 Zoomシステムによるリアルタイムの口頭発表を予定
- 4) 大会長・事務局 安藤寿康(慶應義塾大学)(問い合わせ先 juko@biglobe.jp)

2. 参加資格および参加費

- 1) 日本双生児研究学会会員の他、非会員、学生等、どなたでも参加できます。ただし参加者を把握するため、以下のformに所定の事項をご登録ください。

<https://forms.gle/55DyZ7YnwQJtPhfa7>

- 2) 参加費 無料

3. 実施要領

- ★ Zoomを用いてオンライン・リアルタイムで実施します。Zoomの入り口はこちら↓

<https://keio-univ.zoom.us/j/2645611016?pwd=MUNaUjhBWHg0VXVkd2xFTU5Ldk9zZz09>

ミーティングID: 264 561 1016

パスコード: 997765

- ★発表者はZoomの「共有機能」で発表用スライドを各自提示して口頭発表してください。
- ★発表時間質疑応答や交替の時間も含めて、一件あたり正味15分です。発表10~12分、質疑2~4分、交替1分を目安にご準備ください。
- ★発表の動画は録画し、2021年1月31日までYoutube(このURLは学会終了後、学会員メンバーリストとホームページにてお知らせします)。リアルタイムでの参加ができなかったかたも、その期間、発表の当日と同じ画面を視聴できます。ただしリアルタイムでの質疑応答は出来ません。
- ★当日はリアルタイムの質疑応答の時間を設けますが、あわせてzoomのチャット機能、ならびにgoogle formsからの質問も受け付けます。チャットならびにgoogle formsからの質問に対して発表者から回答があった場合は、後日メンバーリストならびにホームページにて公開します。

<https://forms.gle/jWud3ryoJS7roaKo9>

プログラム

一般演題(1) 医学と分子遺伝学

9:30~9:45

【演題1】「心電図波形成分に及ぼす遺伝及び環境因子の寄与率」

森 早穂¹・上田 宏達¹・大阪ツインリサーチグループ²・渡邊 幹夫^{1,2}

1 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座

2 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

9:45~10:00

【演題2】「双生児の脈圧及び平均血圧の遺伝率」

三輪千華¹・富澤理恵²・白井ころろ¹・磯博康・大阪ツインリサーチグループ²

1 大阪大学大学院医学系研究科

2 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:00~10:15

【演題3】「日本人とハンガリー人データを用いた睡眠の質およびクロノタイプ決定因子の比較検討」

藤原萌子^{1,2,3}・濱真奈美¹・久保田智哉¹・Helga Szabó⁴・Martina Mészáros⁵・Ádám Tárnoki⁴・Dávid Tárnoki⁴・大阪大学ツインリサーチグループ⁶・

立花 直子^{2,3}・高橋 正紀^{1,6}・富澤 理恵⁶・本多 智佳⁶

1 大阪大学大学院医学系研究科生体病態情報科学講座

2 大阪大学大学院医学系研究科睡眠医学講座・

3 関西電力医学研究所睡眠医学研究部

4 Department of Radiology, Semmelweis University, Budapest, Hungary

5 Department of Pulmonology, Semmelweis University, Budapest, Hungary

6 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:15~10:30

【演題4】「DNAメチル化率差の経年変化」

瀧田尚子¹・谷口純平¹・田村夏子¹・増田達郎²・上田宏達¹・

大阪ツインリサーチグループ³・渡邊幹夫^{1,3}

1 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座

2 大阪大学再生誘導医学協働研究所

3 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:30～10:45

【演題 5】「一卵性双生児ペア内の DNA メチル化レベル差の網羅的解析」

田村夏子¹・谷口純平¹・瀧田尚子¹・増田達郎²・上田宏達¹・
大阪ツインリサーチグループ³・渡邊幹夫^{1,3}

1 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座

2 再生誘導医学協働研究所

3 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

10:45～11:00 休憩

一般演題(2) 心理と社会

11:00～11:15

【演題 6】「多胎世帯の家計状況—多胎世帯における純貯蓄水準：第 2 報—」

松葉敬文 岐阜聖徳学園大学経済情報学部

11:15～11:30

【演題 7】「Bayley 乳幼児発達検査での手の選択に与える遺伝および環境の影響」

鈴木国威¹・安藤寿康² 1 就実大学・2 慶應義塾大学

11:30～11:45

【演題 8】「教育達成形成メカニズムの検討—行動遺伝学的アプローチを用いて」

中村聖¹・敷島千鶴²・安藤寿康³

1 北海道大学大学院・2 帝京大学 3 慶應義塾大学

11:45～12:00

【演題 9】「ふたごの生涯発達における個人志向的・主体志向的アプローチからの検討」

福島昌子¹・鈴木むらさき²

1 福井大学大学院連合教職開発研究科 2 フリー写真家

12:00～13:00 幹事会・休憩

13:00～13:30 総会

13:30～14:30

奨励賞受賞記念講演 「パーソナリティ特性と精神病理的な傾向の行動遺伝学」

高橋雄介 京都大学教育学研究科

一般演題(3) 育児と社会支援

14:40～14:55

【演題1 0】「双胎妊娠期・双子育児期の母親における Distress に関する文献レビュー」

武内昌子¹・朝澤恭子²

1 東京医療保健大学大学院修士課程 2 東京医療保健大学 准教授

14:55～15:10

【演題1 1】「オンライン多胎ファミリークラスの効果と課題」

藤井美穂子¹・石田弘子²・大石真弓¹・段ノ上秀雄¹・上松恵子¹・小林郁代³・江戸佳央里³

1 和洋女子大学看護学部看護学科 2 日本赤十字看護大学大学院
3 市川市双子の会 Four Little Cheeks

15:10～15:25

【演題1 2】「未就学多胎児親の育児ストレスに影響する要因」

落合世津子^{1,4,5,6}・山下典子²・新家静²・松本郁子³・本多智香⁴・富澤理恵⁴・川見文紀^{5,8}・立木茂雄⁷

1 おおさか多胎ネット 2 高槻市子ども保健課 3 高槻市保健所
4 大阪大学医学系研究科附属ツインリサーチセンター
5 同志社大学大学院社会学研究科 6 元平安女学院大学 7 同志社大学
8 日本学術振興会特別研究員

15:30～16:55

シンポジウム「新型コロナ禍のふたご/みつご子育て状況

—学会アンケートから描きだされた危機—

安藤寿康¹・布施晴美^{2,3}・糸井川誠子^{3,4}・天羽千恵子^{3,5}・藤澤啓子¹・山形伸二⁶

1 慶應義塾大学文学部 2 十文字学園女子大学教育人文学部
3 一般社団法人日本多胎支援協会 4 NPO 法人ぎふ多胎ネット
5 ひょうご多胎ネット 6 名古屋大学教育学部

16:55～17:00

今期・次期大会長からの挨拶

※本年度は懇親会は開催いたしません。



II. 幹事会報告

1) 日本双生児研究学会 2020 年第 2 回幹事会 議事録

日 時：2020 年 10 月 26 日（月）18:30～18:45

場 所：ウェブ

出席者：五十音順 敬称略

安藤寿行、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、本多智佳、福島昌子、布施晴美、横山美江、
渡邊幹夫 計 9 名

○協議事項

1. 2021 年度学術講演会（第 36 回：岐阜聖徳学園大学）の開催方法について

- ・大会長の松葉会員より提案のあった、査読付きセッションとプロシーディングの発行について議論した結果、査読付きセッションの新設とプロシーディングの発行をお認めすることとした。
- ・なお、学会として E-ジャーナルの発行について前向きに検討することとした。

2. 2020 年度冬季発行予定のニューズレターの発行について

- ・福島幹事より提案があり、以前幹事会で確認した 11 月末の発行にはこだわらず、学会の準備状況に応じて、臨機応変に対応することとした。なお、細かい点については大会長の安藤幹事と相談して進めることとした。

○報告事項

1. 第 35 回学術講演会の開催状況について

- ・大会長の安藤幹事より、現況と演題の募集をさらに行うことが報告された。

2. 2020 年度奨励賞について

- ・横山幹事より、一名の応募があり、現在審査中である旨報告があった。なお、決定次第、幹事会を
書面付議に付し、受賞者がいる場合は、第 35 回の学術講演会で受賞講演を行う予定である。

2) 日本双生児研究学会 2020 年第 3 回幹事会（書面付議）議事録

日時：2020 年 11 月 11 月 4 日から 8 日まで

出席（回答）：回答 8 名、未回答 4 名

○審議事項

2020 年度奨励賞の授与について

審査委員会の原案通り、2020 年度の日本双生児研究学会奨励賞奨励賞を高橋雄介氏に授与することを承認した。

III. 論文、発表抄録の紹介

CODATwins プロジェクトで実施した国際共同研究の成果が学術雑誌 Scientific Reports に掲載されました。

「親の教育レベルがヒトの身長に影響を与えうるのか?!」

【概要】

ヒトの身長の差は、大部分が遺伝要因の影響を受けることが報告されていますが、その差はさまざまな社会経済的要因にも影響される可能性が示唆されています。そこで本研究では、双生児研究法を用いた身長に対する遺伝要因と環境要因の影響を分析しました。

その結果、親の教育水準は、6歳以降の子ども時代の身長、および思春期以降の身長に影響すること（親の教育水準が高いと子どもの身長も高いこと）が判明しました。

一方、双生児研究法を用いて遺伝と環境要因の影響を分析すると、子どもの身長と親の教育水準には一貫した関連は認められなかったものの、教育水準の低い親をもつ子どもの身長は共有環境要因の影響をより強く受けることが示されました。したがって、世界的な大規模データベースを用いた本研究結果から、教育水準の低い親をもつ子どもの身長が環境要因の影響をより強く受ける可能性があることが示されました。

Scientific Reports は自然科学（生物学、化学、物理学、地球科学）のあらゆる領域を対象とした雑誌です。（IF=4.011）

掲載された論文は以下のとおりです。

<https://www.nature.com/articles/s41598-020-64883-8>

文責：横山 美江

V. 学会事務局よりお知らせ

2021年の会費振り込み用紙を同封していますので、お振込みをよろしくお願い申し上げます。

本会の会計年度は1月～12月になります。」

<日本双生児研究学会 会員用メーリングリストについて>

当学会事業のお知らせと、会員間の情報交換や交流にもご活用いただきたく、2017年度より会員用新メーリングリスト (jstsm1@googlegroups.com 以下 ML) を運用し、2020年1月現在で約8割の方にご登録いただいております。ご協力をありがとうございました。

登録がお済みでない方は、下記の手順に従いご登録くださいますようお願いいたします。

◎現会員の登録について

学会 HP の【お問い合わせフォーム】 (<https://jsts.jp.net/contact/>) から、「区分」は「その他」を選び、「お問い合わせ内容」に「ML 登録希望」として、①お名前、②メールアドレス、③所属等の3点をお知らせください。追って担当者より「ML 登録完了」のご連絡をいたします。

◎新入会員の登録について

新入会員については、「ML 非登録」のお申し出がない限り入会申込と共に ML に登録しますので、連絡は不要です。ご入会後に担当者より「ML 登録完了」のご連絡をいたします。

◎配信の停止・変更

配信の一時停止・再開やメールアドレスの変更などについても、上記【お問い合わせフォーム】からお知らせください。

◎利用上の注意

- ・ML での発信・返信は、「送信者名」、「アドレス」、「本文」が ML 登録会員全体で共有されます。特に返信の場合はご注意ください。
- ・添付ファイルを制限していませんので、コンピュータウィルスに対しては各自で防衛してください。
- ・jstsm1@googlegroups.com からのメールを受信できるように設定していただければ、携帯アドレスでの登録も可能ですが、添付ファイルの容量制限等もありますので、PC アドレスでの登録をお勧めします。
- ・大学や職場のドメインを含むアドレスの場合、ウェブ投稿機能がドメイン管理者により無効にされていることがあります。ご自身の投稿が反映されない場合には、ドメイン管理者にご確認の上、別アドレスへの変更等をご検討ください。



編集後記



今年は新型コロナウイルスへの感染拡大防止策として緊急事態宣言が出され、子どもたちは自宅学習、大人は在宅勤務を余儀なくされ、新たな生活スタイルが求められた一年となりました。皆様におかれましても予測困難な状況に対応することで時間ばかり過ぎたのではないのでしょうか。そのような社会情勢ということもあり、第35回学術講演会は安藤大会長のもとで Zoom オンライン開催となりました。NL69号ではそのご案内を中心に編集をいたしました。また、第35回学術講演会が例年より遅く開催されるため、ニュースレターも例年より少し遅い時期にお送りしております。今後、国際雑誌、国際学会などの抄録などをお寄せいただければ幸いです。これまでの会員のみなさまのご協力に感謝しますとともに、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集委員：廣瀬英子（上智大学）・福島昌子（福井大学）